論文審査及び最終試験結果報告書

課 程 博 士	地域社会研究科　地域社会専攻　地域産業研究講座		
学 籍 番 号	１５ＧＲ１１０	氏 ・ 名	李　洪旭
審 査 委 員 （自署又は記名押印）	主　査	黄　孝春	
	副　査	佐々木純一郎	
	副　査	金目哲郎	

（論文題目）

中国における農業機械専業合作社の農地団地化経営の展開
―黒竜江省RF農機合作社の事例を中心に―

（論文審査の要旨）

本論文は、従来の研究では注目されることが少なかった中国農民専業合作社の農地団地化経営に焦点を当て、黒竜江省 RF 農業機械合作社の事例に基づき、農地出資、剰余金分配および連合社経営という三つの経営課題への取組実態を考察し、農業機械専業合作社による農地団地化経営展開のプロセスと特徴を明らかにした意欲的な研究である。

2007 年「農民専業合作社法」公布後、農産物の販売を目的とする農民専業合作社の設立が急増した。先行研究は、既存の農民専業合作社の出資状況や会員構成、運営制度、配当方針に対する研究が多く、中国の農民専業合作社の協同組合的性格をめぐって検討してきた。それに対して、本論文は合作社による農地の規模経営に焦点を当て、具体的には黒竜江省 RF 農業機械合作社の農地団地化経営を研究の俎上に載せ、その形成原因を明らかにした点が高く評価された。とくに「借地経営」と「農地出資」という二つの農地団地化経営の手法の長所と短所を分析しながら、RF 農業機械合作社の農地団地化経営が成功したのは「農地出資」の導入にあると突き止め、そして入社農地に対する配当方針の変動を綿密に分析し、その高配当が同合作社の農地団地化経営成功の条件と結論付けたことの意義が大きいと評価された。また農地団地化経営が一定規模に達した同合作社が合作社同士による連合社の設置、つまり合作社同士の連合経営に転換する背景、狙いと経営の実態に関する分析は農地団地化経営の限界を示し、今後の合作社の行方を示唆した点も評価を受けた。

以上のように、本論文は事例研究により、農業協同組合方式による農地団地化経営の可能性を示唆した研究として新規性・独自性があり、評価できる。ただし、同社の農地団地化経営を実施していく過程において理事長の個人的リーダーシップがどのような役割を果たしたのか、について読者に伝えるべき記述が不足していること、また、農業機械に対する政府補助金が極めて大きいなどからわかるように合作社の経営において重要と思われる政府のかかわりに関する分析が欠如していること、またこの事例研究の学術的位置づけ、理論的インプリケーションをもっと明確にしてほしいなどの問題点が指摘された。

（最終試験結果の要旨）　最終試験実施日：令和　４　年　８　月　６　日

本論文は度重なる現地調査と詳細な内部資料に基づき、中国における農機専業合作社の農地出資による農地団地化経営の実態を明らかにした貴重な研究である。今後、日本の農業協同組合の取組実態との比較研究により論文の学術的価値が高まっていくことが期待される。

公開審査会・最終試験において議論・指摘された点はいずれも本研究を今後さらに発展させるための課題として位置づけられるものであり、主査および副査の協議により全員一致で合格適当と判断された。